

カラダが語りだす、世界の隠された物語

BODY/ PLAY / POLITICS



Yinka Shonibare MBE
インカ・ショニバレ MBE

Yee I-Lann
イー・イラン

Apichatpong Weerasethakul
アピチャッポン・ウィーラセタクン

UuDam Tran Nguyen
ウダム・チャン・グエン

Ishikawa Ryuichi
石川竜一

Tamura Yuichiro
田村友一郎



2016.10.1. Sat. ---
12.14. Wed.

休館日：木曜、11/4（金）[11/3（木・祝）は無料開館]
開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）
※10/28（金）は20:30まで開館（入館は20:00まで）
Closed on Thursdays (except Nov.3) and Nov.4, Fri.
Open hours : 10:00～18:00 (Last admission at 17:30)
※ Open until 20:30 on October 28, Friday (Last Admission at 20:00)



横浜美術館
Yokohama Museum of Art



BODY/PLAY/POLITICS

2016年10月1日(土) - 12月14日(水)



横浜美術館

— カラダが語りだす、世界の隠された物語 —



インカ・ショニバレ MBE《さようなら、過ぎ去った日々よ》
2011年、シングル・チャンネル・ビデオ Courtesy the artist and James Cohan Gallery, New York

本展で紹介するのは、人間の身体や集団としての行動、超自然的な存在など、歴史を通じて作り上げられた身体が生み出すイメージの数々をモチーフに、それぞれの角度から作品化していく現代の作家たちの作品です。

わたしたちはしばしば、ある身体に対して「健康／不健康」とか、「美しい／醜い」といった感覚を抱いたり、特定の行動の中に「典型的な日本人」といった形容で何かの集団を代表するイメージを思い描くことがあります。あるいはほんの少しその印象が食い違うだけで、とても奇妙な感覚を覚え、まったく異なる意味を感じ取ってしまうこともあるでしょう。

肌の色、民族や宗教、性差や生活のスタイルまで、さまざまな違いのある人々が同居する世界では、個々の身体が持つ色や形状、振る舞いなど、本来特定の意味などなかったはずのものに長い時間の中で価値の差別化が生じ、不幸な歴史へと繋がったことも少なくありません。



アピチャポン・ウィーラセタクン《炎（扇風機）》
2016年、シングル・チャンネル・ビデオ・インスタレーション Courtesy of Apichatpong Weerasethakul

展示は、アフリカ風の更紗を用いた作品で知られるイギリスの作家インカ・ショニバレ MBE、マレーシアの女性作家イー・イラン、映画監督としても知られるタイのアピチャポン・ウィーラセタクン、ベトナムを拠点に活躍するウダム・チャン・グエン、日本からは注目の作家、石川竜一と田村友一郎の6作家によるインスタレーションをはじめ、会期中のライブ・パフォーマンスや、ダンスのワークショップなどで構成されます。また、「横浜ダンスコレクション2017」とも連携し、美術とダンスの両面から身体が生み出す表現を掘り下げます。

ヨーロッパとアフリカ、東南アジア、そして日本。本展出品の6作家の作品には、詩的に、時にユーモア溢れる表現で、身体を通じて立ち現れる歴史と向き合い、未来へ向けて新たな意味を見出していこうとする姿が見えてくることでしょう。



ダミアン・ジャレ | 名和晃平《VESSEL》

横浜ダンスコレクション 2017 **BODY/PLAY/POLITICS**

会期：2017年1月26日（木）～2月19日（日）

《主な会場》横浜赤レンガ倉庫1号館及び屋外広場、横浜にぎわい座のげシャレ
《参加アーティスト》ダミアン・ジャレ、名和晃平、多田淳之介、アイサ・ホクソンほか

お問合せ：横浜赤レンガ倉庫1号館

TEL: 045-211-1515 <http://www.yokohama-dance-collection-r.jp/>

パートナー・プロジェクト

本展のみどころ

1. 世界を代表する海外アーティストから、注目株の日本人若手アーティストまで。現代のエッジに触れる、国内外6人によるグループ展。

出品作家は、イギリスで生まれ、アフリカにルーツを持つことからナイジェリアで育ったインカ・ショニバレ MBE、東南アジアからはイー・イラン、アピチャップン・ウィーラセタクン、ウダム・チャン・グエンといった、世界の現代アートシーンを牽引する海外アーティスト4名に加え、日本からは、今注目を集める若手アーティストの石川竜一と田村友一郎の2名の計6名。「身体」をキーワードに、立体作品や映像インスタレーションなど多彩な手法で織りなす作品で構成されます。

2. 現代美術アーティストのグループ展ならではの。出品作家が相次いでイベントに登場。

国内外の出品作家たちが関連イベントに続々と登場するのも、本展の大きな魅力のひとつ。開幕時には海外からの3作家が登場するアーティスト・トークやシンポジウムを開催。同時代を生きる海外アーティストの声を直接聞くまたとないチャンスです。また石川竜一は、自身がメンバーに名を連ねるアーティスト・コレクティブ「野生派」による会期中のライブパフォーマンスを実施。閉館後の美術館で、参加者だけで展覧会を独占できる「夜の美術館でアートクルーズ」には、石川竜一と田村友一郎が登場します。

3. 今年、日本で熱い注目を集めるアピチャップン・ウィーラセタクン。本展では、日本初公開の作品を出品。

2010年にカンヌ映画祭パルム・ドール（最高賞）の受賞で一躍脚光を浴び、映画監督としてもその名を馳せるアピチャップン・ウィーラセタクン。今年にはアピチャップン・イヤーとの声があがるほど、彼の作品が日本国内のさまざまな美術館やアートフェスティバルにてフィーチャーされています。本展では、2016年制作のビデオ・インスタレーションを日本で初めて公開します。

【参加展覧会など】

- 映画『世紀の光』（2006年）、新作『光りの墓』（2015年）日本全国順次公開中／「特集上映アンコール」 [12月]
- 「爆音映画祭2016特集タイ | イサーン」@渋谷WWW [9月27日（火）～10月1日（土）]
9月30日（金）アピチャップン・ウィーラセタクン特集
- 青森県立美術館「青森EARTH2016 根と路」 [7月23日（土）～9月25日（日）]
- 「さいたまトリエンナーレ2016」 [9月24日（土）～12月11日（日）]
- 東京都写真美術館 個展「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」 [12月13日（火）～2017年1月29日（日）]

4. 今、もっとも注目される写真家のひとり、石川竜一。本展にて未発表作品初公開。

2015年に第40回木村伊兵衛写真賞、日本写真協会賞新人賞を続けて受賞するという衝撃的なデビューを飾った石川竜一。本展にて横浜美術館の展覧会に初登場、未発表の新シリーズを公開します。

5. 「創造都市横浜」から発信、美術とダンスのコラボレーション。横浜を取材した新作も発表。

本展と同じく「BODY/PLAY/POLITICS」をテーマに開催される「横浜ダンスコレクション2017」。会場となる横浜赤レンガ倉庫1号館は、創設から22回目を迎える「横浜ダンスコレクション」をプロデュースするアジアのダンス拠点であり、横浜美術館とともに「創造都市横浜」という、アートを通じたまちづくりを推進するエリアに位置しています。この2館のコラボレーションにより、美術とダンスという2つの領域から、身体表現の可能性を掘り下げ、創造都市横浜からの多角的な発信をめざします。

新進気鋭の現代美術家・田村友一郎は、横浜の戦後史に取材した新作を発表します。本作にて、「横浜ダンスコレクション2017」で世界初演作品を発表する多田淳之介（劇作家・演出家）とのジャンルを超えたコラボレーションに取り組みます。

PRESS RELEASE

出展作家と作品

インカ・ショニバレ MBE

Yinka Shonibare MBE



©James Mollison 2014

1962年ロンドン生まれ、ロンドンを拠点に活動。3歳からナイジェリアのラゴスで育ち、ロンドンのパイラム・ショウ・スクールとゴールドスミスで美術を学んだ作家は、人種、社会階級、植民地主義の問題をテーマとした、絵画、彫刻、写真や映像を制作しています。彼の作品のトレードマークは、作家がロンドンで入手した「アフリカ風の」ろうけつ染め



インカ・ショニバレ MBE《さようなら、過ぎ去った日々よ》

2011年、シングル・チャンネル・ビデオ Courtesy the artist and James Cohan Gallery, New York

による色鮮やかな生地です。こうした布は、インドネシアのデザインを元にオランダ人によって大量生産され、最終的には植民地である西アフリカで売られてきたという歴史的背景があります。それはやがて、アフリカのアイデンティティと独立を象徴するものとなりました。本展では立体作品に加えて、ろうけつ染めの布で作られた、19世紀フランス風のドレスを纏った女性歌手の映像作品も紹介します。彼女は、ヴェルディ作曲のオペラ「椿姫」のヒロインであるヴィオレッタに扮して、アリア「さようなら、過ぎ去った日々よ」を演じています。

日本での主な作品発表 「アフリカ・リミックス：多様化するアフリカの現代美術」森美術館(2006年)

イー・イラン

Yee I-Lann



©Joe Kidd



上：イー・イラン《ポンティアナックを思いながら：曇り空でも私の心は晴れ模様》

2016年、ビデオ・インスタレーション (3面) ©Yee I-Lann

下：イー・イラン《サントイ》

2016年、ジクレー・プリント、106x205cm ©Yee I-Lann

1971年サバ、マレーシア生まれ、クアラルンプールを拠点に活動。

写真や映像、インスタレーションなどで、現代社会における、文化、歴史的記憶の権力や役割の意味を問い直すような作品を制作しています。本展では、東南アジアの民間伝承ではよく知られた女性の幽霊である、ポンティアナックをモチーフとした映像インスタレーションを発表します。ポンティアナックは長髪を振り乱して白い衣をまとった女性の怪物の姿で描かれるのが通例で、インドネシアではクンティアナックの名で、タイやカンボジアではナン・タニとも呼ばれます。またフィリピンでは、胎児や子どもを食べる怪物の姿が思い描かれます。多くの異なる言い伝えがあり、出産中に亡くなった、あるいは強姦された女性の魂とも信じられ、また女性を傷つけた男性を諭すために存在するとも言われています。彼女が惨めな男性を切るシーンは、ホラー映画にもよく登場します。イランは作品の中で、現代の若者の姿を通して、女性たちの暴力的な経験の象徴としてのポンティアナックを蘇らせています。そして彼女たちの視点から、女性特有の出産へのプレッシャーや、東南アジアにおけるより幅広い社会状況について意見を求めようとしています。

日本での主な作品発表 「第4回福岡アジア美術トリエンナーレ2009」、「Welcome to the Jungle 熱々！東南アジアの現代美術」横浜美術館(2013年)

アピチャップン・ウィーラセタクン

Apichatpong Weerasethakul



photograph by Chai Siris

1970年バンコク生まれ、チェンマイを拠点に活動。タイのコーンケン(東北地方)で育った作家は、その土地が持つ政治的に複雑な環境を、詩的な象徴性に満ちた映画や映像作品で紹介してきました。本展では、2014年から新たに取り組むシリーズより、2016年制作のビデオ・インスタレーション《炎(扇風機)》を日本で初めて披露します。映画『ブンミおじさんの森』(2010年)でカンヌ

国際映画祭パルムドールを受賞するなど、映画監督として世界的な注目を集めてきた作家は、現在、最新の監督作『光りの墓』(2015年)が全国順次公開中。作家による横浜での展示は、2011年の横浜トリエンナーレ以来5年ぶりとなります。

日本での主な作品発表 「さいたまトリエンナーレ2016」、「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」東京都写真美術館(2016年)



アピチャップン・ウィーラセタクン《炎(扇風機)》
2016年、シングル・チャンネル・ビデオ・インスタレーション Courtesy of Apichatpong Weerasethakul

ウダム・チャン・グエン

UuDam Tran Nguyen



1971年、コンツム生まれ、ホーチミンを拠点に活動。

ベトナムに生まれ、アメリカで学んだ作家は、パフォーマンスを軸とした映像や立体作品、インターネットを通してドローイングのためのマシンを遠隔操作するインタラクティブなプロジェクトなど、動きをベースにした作品を発表しています。本展では、ベトナムの道路の主役ともいべきオートバイが、まるで身体中を駆け巡る血液のように、ホーチミンの古い市街地を縦横無尽に走り回る映像インスタレーション《ヘビの尻尾》を発表します。フランス統治時代の雰囲気を残す建造物から、南北統一後、ベトナム社会主義共和国第一の商業都市として発展する過程で建てられた近代的な建築まで、所狭しと建物が立ち並ぶホーチミンは、さながら複雑な歴史と強じんな生命力とを宿す巨大な生き物のように見えてくるでしょう。

日本での主な作品発表 「黄金町バザール2014」、「あいちトリエンナーレ2016」



ウダム・チャン・グエン《ヘビの尻尾》より(部分)
2015年、ビデオ・インスタレーション(3面)
©UuDam Tran Nguyen. Courtesy of the artist.

PRESS RELEASE

石川竜一

Ishikawa Ryuichi



1984年、宜野湾生まれ、那覇を拠点に活動。

初めてカメラを手にしてわずか10年、石川は自身の生活圏である沖縄の風景と人々とを、息つく暇も与えないような緊張感をもって捉えた写真を発表、2015年に木村伊兵衛写真賞と日本写真協会新人賞をダブル受賞するなど写真界に鮮烈な印象をもって迎えられました。本展では、

初めて公開される沖縄と県外各地で撮影されたポートレートや風景、そして、数年に渡って取材を続けるある2人の人物に迫る新シリーズを紹介します。石川の写真に表れるのは、わたしたちが見知った気になっていた日本、あるいは沖縄のイメージからはかけ離れた多種多様な生のリアリティです。不器用ながらも懸命に生きようとする人へ、独特の愛情ともよぶべき視線を向ける石川の写真からは、画一的な尺度では推し量れない生きることの価値が見えてくることでしょう。

主な作品発表 「あざみ野フォトアニュアル 考えたときには、もう目の前にはない 石川竜一展」横浜市民ギャラリーあざみ野(2016年)、
「六本木クロッシング2016展:僕の身体、あなたの声」森美術館



石川竜一《浦添、グッピーの手》
2016年、インクジェット・プリント ©Ryuichi Ishikawa

田村友一郎

Tamura Yuichiro



1977年、富山生まれ、熱海を拠点に活動。

田村は、映像や写真、インスタレーション、パフォーマンスなどの多彩な手法により、ある土地の記憶や歴史を掘り起こし、時空を超えた新たな物語へと変換し、その現代的意味を問うような作品を発表してきました。本展では、近代ボディビルディングの歴史に注目し、新作の映像インスタレーションを発表します。19世紀のプロイセン王国で誕生した近代ボディビルディングは、やがてヨーロッパからアメリカへと伝播、戦後のGHQ占領下の横浜から日本へともたらされ、近代における新たな身体感を作り上げました。1951年のクリスマス、ある小説家が横浜港から世界一周旅行へ旅立ちます。その途中に立ち寄ったギリシアで出会った「太陽」と「肉体」。横浜を起点とした肉体を巡る物語の始まりです。また、本展のパートナー・プロジェクトである「横浜ダンスコレクション2017」参加アーティスト・多田淳之介とのコラボレーションにも取り組みます。



田村友一郎《裏切りの海》より 2016年、インスタレーション

主な作品発表 「物語のかたち—現在に映し出す、あったること」せんだいメディアテーク(2015年)、「これからの写真」愛知県美術館(2014年)

トピックス

11月3日(木・祝)

横浜美術館の開館記念日は観覧無料!

今年の文化の日は、横浜美術館の27回目の開館記念日。この日を祝し、どなたでも無料で展覧会をご覧いただけます。コレクション展とあわせてお楽しみください。

8月31日(水)までの期間限定!

先行ペア券2,000円を販売中。

通常一般料金1,500円のところ、1セット2枚で2,000円のたいへんお得な先行ペア券は、当館ミュージアムショップ、「セブンチケット」にてお買い求めいただけます。8月31日(水)までの期間限定販売をお見逃しなく!

10月28日(金)は20:30まで開館。

出品作家が登場する

ライブパフォーマンスも。

通常18:00閉館のところ、10月28日(金)は20:30まで開館(入館は20:00まで)。お仕事帰りにゆっくりと展覧会をご鑑賞いただけます。またこの日の夜には、出品作家の一人、石川竜一がメンバーに名を連ねるコレクティブ「野生派」によるライブパフォーマンス(参加費無料)を開催。展覧会とあわせて秋の夜長をお楽しみください。

関連イベント

1. アーティスト・トーク

出演:ウダム・チャン・グエン、

アピチャップン・ウィーラセタクン

日時:2016年10月1日(土)13:45~16:30 [開場13:15]

会場:横浜美術館円形フォーラム

定員:100名(事前申込不要、先着順、参加無料)

※日英逐次通訳

2. アジア・アートウィーク フォーラム 波紋—日本、マレーシア、インドネシア 美術の20世紀

第50回アジア開発銀行年次総会横浜開催連携事業

日時:2016年10月2日(日)

[第1部]13:00~16:00(12:30開場)

[第2部]17:30~20:30(17:00開場)

会場:[第1部]横浜美術館円形フォーラム

[第2部]高架下スタジオ Site-D 集会場

(横浜市中区黄金町1-2番地先)

定員:各会場100名(事前申込不要、先着順、参加無料)

※日英逐次通訳

主催:横浜美術館、黄金町エリアマネジメントセンター、横浜市

[第1部](会場:横浜美術館円形フォーラム)

13:00~14:00 **基調講演**

「1868-1945 / 幕末から第2次世界大戦にかけての日本人の身体観と美術」

講師:河田明久(千葉工業大学教授)

14:00~16:00 **セッション①**

「1950年代以降のマレーシア、インドネシアにおけるフェミニズム運動と美術」

パネリスト:イー・イラン(出品作家)、

小勝禮子(近現代美術史・美術批評)

モデレーター:木村絵理子(横浜美術館主任学芸員)

[第2部](会場:高架下スタジオ Site-D 集会場)

17:30~19:30 **セッション②**

「小野佐世男と1940年代のインドネシア美術」

パネリスト:アンタリクサ(歴史家/クンチ・カルチュラル・スタディーズセンター共同設立者)

小野耕世(日本マンガ学会会長)

モデレーター:山野真悟(黄金町パザールディレクター)

19:30~20:30 **ディスカッション(パネリスト、主要出品作家)**

※終了後、登壇者を交えて懇親会を開催します。(会費制)

3. ライブパフォーマンス

野生派:curryなる3つめの事故
(wifiじゃないから聞こえないっす)

【共催:横浜音祭り2016】

出品作家の石川竜一が参加する実験的かつクロスジャンルなアーティスト・コレクティブ「野生派」による一夜限りのライブパフォーマンス。

出演:野生派

[石川竜一+吉濱翔+ミヤギフトシ+渡辺郷+木村絵理子]

日時:2016年10月28日(金) 19:00~20:30

※当日、横浜美術館は20:30まで開館

会場:グランドギャラリー

※事前申込不要、参加無料

4. 夜の美術館でアートクルーズ

閉館後の美術館を参加者だけで独占できる特別な鑑賞会です。本展のアートクルーズには、出品作家が登場します。アーティストと共に過ごす、贅沢な時間をお楽しみください。

①2016年10月26日(水) 19:00~21:00

解説:木村絵理子(横浜美術館主任学芸員)

ゲスト:石川竜一

②2016年11月26日(土) 19:00~21:00

解説:木村絵理子(横浜美術館主任学芸員)

ゲスト:田村友一郎

会場:横浜美術館企画展展示室

対象・定員:18歳以上・各回70名(事前申込、先着順)

参加費:3,000円

※申込の詳細はウェブサイトで

5. ワークショップ

【横浜美術館×横浜赤レンガ倉庫1号館 共同企画】

2016年12月開催予定

多田淳之介(東京デスロック主宰/

富士見市民会館キラリ☆ふじみ芸術監督/


「横浜ダンスコレクション2017」参加アーティスト)

田村友一郎(本展出品作家)

※詳細はウェブサイトで

BODY/PLAY/POLITICS

会期 2016年10月1日(土) — 12月14日(水)
 開館時間 10:00~18:00(入館は17:30まで)
 ※10月28日(金)は20:30まで開館(入館は20:00まで)
 休館日 木曜日、11月4日(金)
 ※ただし11月3日(木・祝)は無料開館

主 催: 横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
 助 成:  芸術文化振興基金
 特別協賛: 寺田倉庫
 後 援: 横浜市
 協 力: 横浜高速鉄道株式会社、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社
 プロジェクト・パートナー: 横浜赤レンガ倉庫1号館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

チケット

	当 日	前 売	団 体
先行ペア	—	2,000円	—
一般	1,500円	1,300円	1,400円
大学・高校生	1,000円	800円	900円
中学生	600円	400円	500円
小学生以下	無 料	—	—
65歳以上	1,400円	—	—

※ 要証明書、美術館券売所でのみ対応

チケット取扱い | 横浜美術館(前売はミュージアムショップ)
 セブン-イレブン店内マルチコピー機「セブンチケット」

特典つきグループチケット

[対象] 一般/大学・高校生/中学生の前売・当日券の定価3名様以上
 [特典] 横浜美術館特製ポストカード(非売品)を人数分プレゼント
 [チケット取扱い] セブンチケット
 ※総合案内にて「引換券」と特典を引き換えて下さい。

※2016年11月3日(木・祝)は観覧無料
 ※先行ペア券:1セット2枚で2,000円 販売期間:2016年6月24日(金)~8月31日(水)
 ※前売券販売期間:2016年9月1日(木)~9月30日(金)
 ※団体は有料20名以上(要事前予約)
 ※毎週土曜日は、高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)
 ※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料
 ※本展チケットで観覧当日に限り、横浜美術館コレクション展もご覧いただけます
 ※その他の割引料金については、別途お問い合わせください

横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1
 TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317
<http://yokohama.art.museum/>

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当(宮野、藤井、長濱)
 TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317
 E-mail: pr-yma@yaf.or.jp